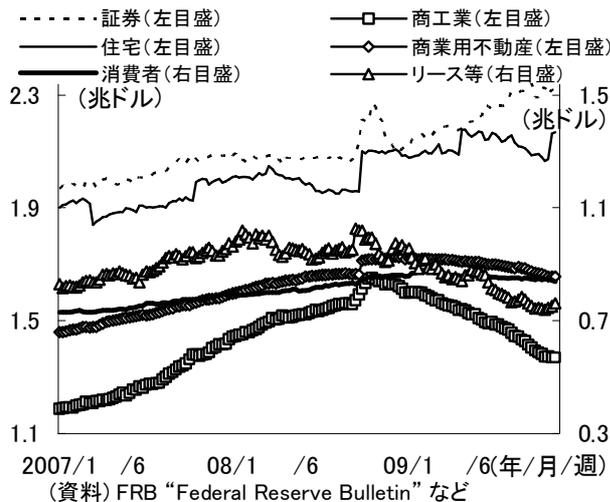


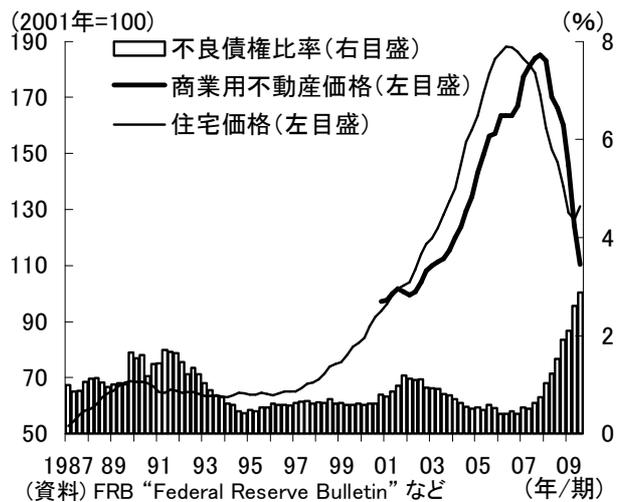
米国金融セクター悪化に依然歯止め掛からず ～ 預金保険会社の準備金はマイナスへ ～

- (1) 2008年10月以降、貸出や証券運用を合算した銀行信用残高は趨勢的に減少。とりわけ、商工業向けや商業用不動産、さらにリースなど、企業向け融資が減少（図表1）。
- (2) 主因は深刻な景気悪化。その結果、不良債権の増勢に拍車がかかる一方、商業用不動産価格の下落ペースが加速するなか（図表2）、銀行セクターの金融仲介機能が低下。なお住宅用不動産価格では、政府の購入促進策が奏功し、本年央から底入れの兆しも。もっとも、中古住宅の在庫水準は依然として既往最高水準で高止まりしており、政府の支援策が打切られる来春以降の動向は不透明。
- (3) 銀行セクターでは単なる金融仲介機能の低下にとどまらず、本年入り後、問題銀行数の増勢に拍車がかかる一方、破綻銀行数も急増（図表3）。
- (4) そうした情勢下、破綻銀行処理に備えた米国預金保険会社の準備金残高が、本年9月末、マイナスに転落（図表4）。
- (5) 雇用情勢は引き続き悪化し、企業倒産・個人破産件数の増勢に歯止めが掛からない現状に照らせば、米国金融セクターの回復は依然途半ばの公算大。

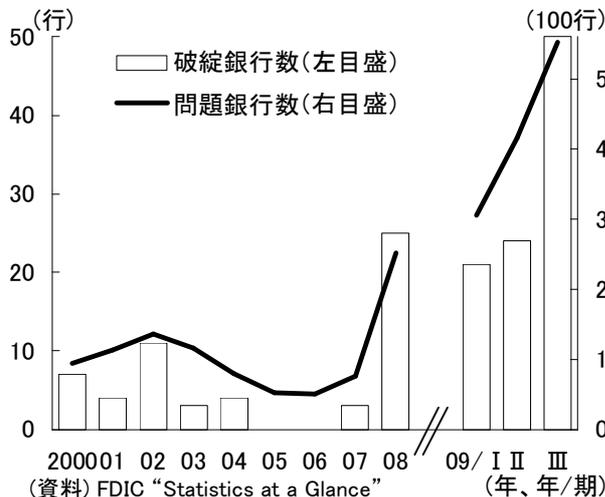
（図表1）米国銀行貸出残高の推移（季調済）



（図表2）米国不動産価格と不良債権比率の推移



（図表3）米国破綻・問題銀行の推移



（図表4）米国預金保険準備金の推移

